

2025

5.14 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

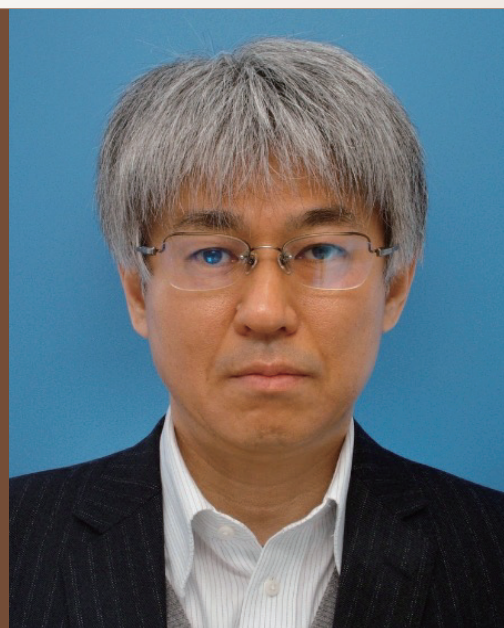
オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_IX6ubKe8QSyUZV1dMn7FNA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

九州帝国大学のアジア調査研究



Key Words

九州帝国大学

アジア

フィールドワーク

藤岡 健太郎 教授

大学文書館



1970年に山口県宇部市で生まれました。2003年に九州大学大学院比較社会文化研究科博士後期課程を単位取得満期退学し、その後、博士(比較社会文化)を取得しました。2005年、九州大学大学院人文科学研究院特任助手に採用され、2009年『九州大学百年史』編纂のため大学文書館に百年史編集室が設置されると同時に准教授として着任しました。2017年に『九州大学百年史』編纂事業が終了後、大学文書館の准教授を経て、2020年に同副館長・教授となり、現在に至っています。研究テーマはもともとは近代日本思想史でしたが、現在はアーカイブズ学や大学史を主な研究テーマとしています。

九州大学では、特にアジア地域との国際交流がますます盛んになってきていますが、こうした活動は九州帝国大学の時代から行われていたものです。それでは、現在ほど交通が発達していなかった時代に、どのような「国際交流」が行われていたのでしょうか。このセミナーでは、九州帝国大学の教官たちの、アジア地域での調査研究活動に注目し、戦前・戦中期の「国際交流」のあり方を紹介します。まず、どの分野の教官が、どの地域に、どれくらい渡航していたのか、数量的に明らかにします。その上で、幾人か事例を挙げて、具体的にどのような調査研究活動を行っていたのか、紹介していきます。

2025

5.21 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_mWGml752RZ2yuyJdmt4XjQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

音速を超えた世界の主役 「衝撃波」の科学と異分野応用



Key Words



高速流れ

衝撃波

ドラッグデリバリー

市原 大輔 准教授

九州工業大学大学院工学研究院 機械知能工学研究系

名古屋大学大学院航空宇宙工学専攻にて宇宙推進機の一つである電気推進機に関する研究を行い修士号を取得しました。その後は日本電気株式会社知的財産統括本部(当時)に在籍しパテントエンジニアとして主に宇宙事業部関連の特許獲得業務を担当してきました。その後は前述の大学院博士後期課程に再入学し博士号を取得、同専攻の助教に着任しました。これまでの宇宙推進機研究に加え、衝撃波を伴う高速流体力学およびその医療応用に関する研究も始めました。2024年度より活動の場所を九州工業大学大学院機械知能工学研究系に移し自身が主催する「高速流動力学研究室」を立ち上げました。

夏の夜空で花火が咲くと、美しい光が見えた後にビリビリと体が揺さぶられることがあります。その原因は、空気中を伝わる圧力波の一種「衝撃波」です。衝撃波は自然が生み出したダイナミックかつ美しい現象です。衝撃波の特徴はその非線形性にあり、特に波の背後で瞬間的に急増する圧力は航空学者にとって避けては通れない " 空気の壁 " となって立ちまわってきました。本セミナーでは巧妙で時にやっかいな衝撃波の奥深さとその意外な応用先をご紹介します。

2025

5.28 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_oQBmDhZTSWKh9k45ZJztow

【技術支援】九州大学 Q-AOS

現代病としてのアレルギー疾患と、
その治療法の提案

Key Words

アレルギー

森 健 教授

工学研究院 応用化学部門

1974年 長崎県生まれ

2001年3月

九州大学大学院工学研究科材料物性工学専攻博士課程修了(前田瑞夫教授)

1999年4月～2001年3月

学術振興会特別研究員

2001年4月～2005年10月

徳島大学工学部化学応用工学科 助手(増田精造教授・南川慶二准教授)

2005年11月～2013年4月

九州大学工学研究院応用化学部門 助教(片山佳樹教授)

2008年10月～2009年9月

デューク大学医用工学科 客員研究員(Chilkoti 教授)

2013年5月～2025年3月

九州大学工学研究院応用化学部門 准教授(片山佳樹教授)

2018年4月～2019年3月

京都大学エネルギー理工学研究科 客員准教授

2020年10月～2025年3月

学術変革A「物質共生」総括班

2024年2月～現在

株式会社 TOLERO bio CTO

2025年4月～現在

九州大学工学研究院応用化学部門 教授

受賞

2010年5月 高分子学会奨励賞「合成高分子を用いたタンパク質相転移現象解明へのアプローチ」

花粉症や食物アレルギーをはじめとするアレルギー疾患の患者数は、世界的に増加している。アレルゲン免疫療法は、アレルギーを根治しうる治療法であり、我が国では、スギ花粉症とダニアレルギーに対して、舌下投与用の製剤が承認されている。それに対して、欧米では多種多様なエアロアレルゲンに対する注射剤と舌下剤が承認されており、日本は遅れた状況にある。一方、食物アレルギーの治療は、アナフィラキシーのリスクが高いため、エアロアレルゲンの治療に比べて一般化されておらず、特定の病院でのみ行われている。私の研究では、エアロアレルゲンや食物アレルゲンに対して、アナフィラキシーの心配がなく、かつ効果の高い製剤を目指している。